

確かな学力の定着を進めることはもとより、たくましく生きるための体力づくり、道徳教育などを通じた豊かな心の育成、良好な教育環境の確保が重要です。

そのため、子どもたちの学びの場である小・中学校の校舎については、平成29年4月の供用開始を予定している鷺別小学校の建て替えや青葉小学校校舎の耐震補強工事を引き続き実施するとともに、登別中学校校舎の耐震改修工事における実施設計を行い、児童・生徒の安全安心な教育環境を確保していきます。

また、総合教育会議において、当市の教育や学術、文化の振興に関する総合的な施策の推進を図るための方針となる『教育大綱』を定め、時代の変化に対応した総合的な教育施策に取り組んでいきます。

○2020年東京オリンピック・パラリンピック開催や国立アイヌ文化博物館開設を見据えた取り組み

2020年東京オリンピック・パラリンピック開催に向け、各国が日本に注目していることを好機と捉え、当市の強みである登別温泉などの観光資源や熊舞などの郷土芸能を世界に発信し、新たな誘客を図るとともに、子どもたちがさまざまな競技に興味をもち、夢を育むことができる

よう、各競技団体や障がい者団体など関係団体の意見や協力を得ながら、オリンピック選手をはじめとした関係者を招き、講演や競技の技術指導をしていただく機会をつくっていきます。

さらに、白老町において予定されている国立アイヌ文化博物館の開設を見据え、白老町や市内関係団体と連携を深めるとともに、今まで積み重ねてきたアイヌ民族の文化に関する調査・研究を整理し、その成果に基づいた市民講座の開催や小・中学校への情報提供を重ね、アイヌ民族の文化への理解と振興に努めていきます。

○まちの歴史に係る取り組み

市民が自分のまちに愛着や誇りを持つためには、多くの先人が築き上げてきたまちの歴史を学び、まちの魅力を確認することが重要です。

市史編さんについては、市制施行50周年を迎える平成32年度の刊行に向け、登別市史編さん委員会を立ち上げ、今後の編さん方針や執筆要領について協議を進めます。

また、市内外の機関や個人、事業者、団体などの協力を得て、郷土・登別に関する有形無形の歴史資料を収集し、市内の各地域で宮まわってきた日々の暮らしや遊びを記録するなど、広く市民に親しまれ今後の魅力あるまちづくりに資するよう地域の歴史をまとめていきます。

住みつつ住みたい、住んでみたいと思える魅力あるまちづくり

他都市との交流や道徳心の向上などを通じ、登別市の魅力向上を図り、市外にその魅力をPRする

まちの活性化には、市民が住みつつ住みたいと思え、まちにお越しいただいた皆さんが住んでみたいと思えるような魅力あるまちづくりを進めることが必要です。

姉妹都市をはじめとした国内の交流はもとより、諸外国との幅広い交流は、交流人口の確保につながることも、当市のみでは得がたい知識

や情報を吸収し、広い視野のもと、まちづくりに取り組むことが可能となります。

○他市町村との交流

これまで、宮城県白石市や神奈川県海老名市とは、トライアングル交流宣言を行い、交流を深めてきたところであり、昨年、海老名市と姉妹都市提携の盟約を締結したことにより、これまでの交流で培ってきた絆がより強固なものになるものと確信しています。

今後、行政間の交流だけでなく、引き続き物産販売による経済交流を継続するとともに、子どもたちのスポーツ交流を実施するなど、民間交流を継続していきます。



▲アイヌ文化や登別市に移住した仙台藩土片倉家主従に関する資料などを展示している郷土資料館



▲姉妹都市である登別市と神奈川県海老名市の小学生が参加したスポーツ交流事業

また、東京都福生市や滋賀県守山市との交流については、引き続き四